

地域でのサービス・ラーニングによる生徒の主体性の育成

—生徒会と地域による避難所生活の課題解決の試み—

高度学校教育実践専攻
学校づくりマネジメントコース
近藤 千恵子

実習責任教員 大林 正史
実習指導教員 芝山 明義

キーワード：「変革」を志向するサービス・ラーニング，生徒と地域の大人との協働，生徒の主体性

I 課題設定の理由・経緯

1 実習校の概要

実習校は、生徒数 625 名、学級数 22 学級、教職員数 41 名の中学校である。

2 実習校の課題

教職員の聞き取り調査と、全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、共通する生徒の課題が見えてきた。それは、「生徒の主体性の育成が不十分であること」だとわかった。そこで、「生徒の主体性を育成すること」を、この実践の目的とした。

3 実習校の地域の概要

地域にある 7 つの公民館へ行き、地域の様子について聞き取り調査を行った。若者の地域の担い手不足により、共助機能の低下につながる恐れがあること、住民の防災意識が低いことがわかった。

4 地域課題カテゴリーを「防災」に決定

生徒の行動制限や新型コロナウイルス感染予防を考え、地域課題カテゴリーを「防災」に絞った。T 地区の自主防災連合会と生徒会が協働して、地域課題の解決策を考え、実行する計画に修正した。

5 先行研究、先行実践事例

○主体性の定義

浅海（1999）は、5 つの主体性の下位尺度「積極的な行動」「自己決定力」「自己を方向付けるもの」「自己表現」「好奇心」とし、主体性の下位尺度を測る質問紙を作成した。

○サービス・ラーニング

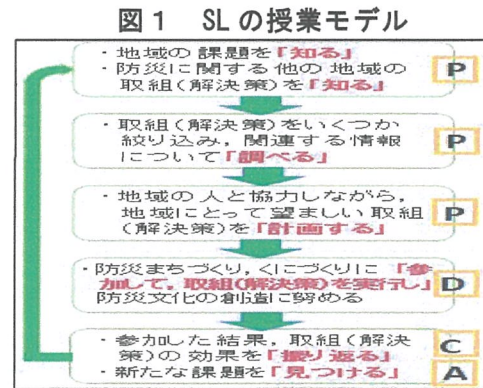
唐木（2010）は、サービス・ラーニング（以後 S L と略称）を、「思慮深く組織されたサービスの経験への活動的な参加を通して、若者が学習し成長することを目標に置いた一つの教育方法である」と述べた。SL は、目的によって 2 つに分類できる。1 つは「慈善(charity)」を目的とした SL である。今ある地域の現状に、足りないものを付け加えて補う活動で、ボランティア活動がそれにあたる。この活動を通して、生徒に利他主義(altruism)の感覚を芽生えさせることを目的とする。もう 1 つは、「変革(change)」を志向する SL である。今ある地域の現状を批判的に捉え、課題を見つけ、その課題の解決策を実行する活動であ

る。解決策の実行により、地域の現状や住民の意識を変革することを目的とする。この実践では、後者の「変革」を志向する SL を意識した取組を行う。「変革」を志向する SL では、地域課題の解決策を実行し、振り返る。振り返りから、新たな課題を見つけ、改善した解決策をさらに実行する。この繰り返される学習により、生徒の思考を促し、目標に向けて自ら行動しようとする態度を養うことができる（主体性が高まる）と仮説を立てた。

II 実践の計画

1 防災をテーマとした SL の授業モデル

藤井・唐木(2015)の防災まちづくり・くにつくり学習の授業モデルを参考に、図1の「SLの授業モデル」を作成した。



この授業モデルを元にして、単元計画を立て、授業実践を行った。

2 育成したい主体性の下位尺度とその評価基準の設定

浅海(1999)の主体性の下位尺度の中の項目から、1つ選択し、図2の「育成したい主体性の下位尺度と評価基準」を設定した。

毎回行う授業実践で、育成したい主体性の下位尺度を選択し、それを高める手立てや働きかけを行った。特に筆者が意識した働きかけは、「批判的思考を促す言葉がけ」である。また、「地域と生徒会が協議して解決策を話し合う場を設ける」ことに努めた。

図2 育成したい主体性の下位尺度とその評価基準

主体性の下位尺度	評価基準
自己決定力	自分が考え出した良い意見を、周りに反対されたとしても、同調圧力に流されないで、良い理由を述べて主張することができる。
自己表現	自分の言葉で、自分の考えを言うことができる。
自己を方向付けるもの	大きな目標を持ち、それができるようにこつこつ取り組むことができる。
積極的な行動	やることを人に言われなくても、時間や場所などを考えて自分から進んですることができる。
好奇心	分からないことは、すぐに自分で調べることができる。

3 実践の評価方法

実践に取り組む前(6月)と取り組んだ後(11月)に、浅海(1999)が作成した主体性の下位尺度を測る質問紙(巻末資料4)を使って、アンケートを実施した。2回の回答の変容から、この実践における主体性の育成への効果を分析した。また、授業中の生徒観察や授業後の感想から、主体性の下位尺度の変容を見取った。

III 実践の実際

1 「生徒による SL の計画」の実践

図1で、「知る」「調べる」「計画する」の3つを、「生徒による SL の計画」と捉え、表3の授業実践を行った。

6月26日の実践では、生徒は地域の課題をふまえ、めざす地域の姿(目標)を決定した。

表3 生徒によるSLの計画

授業日	活動内容
2月 16日	自主防災訓練に参加し、地域課題を見つけよう
6月 26日	地域課題を話し合い、めざす地域の姿(目標)を決めよう
7月 2日	地域課題を解決するための解決策を考えよう①
7月 15日	津田中学校防災倶楽部の取組から学ぼう
7月 17日	解決策の効果を測る方法を話し合おう
7月 28日	自主防災連合会、徳島大学の先生と、解決策について一緒に考えよう
8月 6日	安心感の概念を考えよう

7月15日の実践では、津田中学校防災学習倶楽部の取組から、自分たちが考えている解決策を見直し、津田中学校にはない独自の取組を、考えることができた（「積極的な行動」の高まり）。

7月28日の実践では、生徒は地域の自主防災連合会や徳島大学の先生と、解決策を協議し、具体的に行動しようとする意識の芽生えが、感想から見られた（「好奇心」の高まり）。

2 「生徒によるSLの実行」の実践

図1で、「参加して、取組（解決策）を実行する」を、「生徒によるSLの実行」の実践と捉え、表4の授業実践を行った。

表4 生徒によるSLの実行

授業日	活動内容
8月 18日	解決策について研究してきたことを発表しよう①
8月 21日	解決策について担当する分野を決めよう
8月 26日	解決策について研究してきたことを発表しよう②
9月 4日	自主防災連合会の方と、解決策について一緒に考えよう①
9月 7日	解決策を改善しよう①
9月 8日	解決策紹介ビデオを撮影しよう
9月 11日	文化祭で、解決策ビデオを放送して、アンケートを実施しよう

8月26日の実践では、生徒は解決策とその解決策を考えた理由を、説明することができた（「自己表現」の高まり）。

9月4日の実践では、解決策の協議にお

いて、地域の方の意見を鵜呑みにせず、調べようとする様子が見られた（「自己決定力」の高まり）。

3 「生徒によるSLの振り返りと改善」の実践

図1で、取組の効果を「振り返る」、新たな課題を「見つける」では、「生徒によるSLの振り返りと改善」の実践と捉え、表5の授業実践を行った。

表5 生徒によるSLの振り返りと改善

授業日	活動内容
9月 15日	アンケートの分析方法を考えよう
9月 18日	アンケートの集計を持ち寄り、分析方法を話し合おう
10月 2日	アンケート結果を分析し、さらに良い解決策にしていこう
10月 7日	国、県が推奨するレイアウトを比較しよう
10月 14日、22日	段ボール間仕切りを作ろう
10月 30日	自主防災連合会の方と、解決策について一緒に考えよう②
11月 7日	地域のコミセン祭りで、解決策を披露しよう

10月2日の実践では、アンケート結果から、解決策の効果を検証し、新たな課題を見つけ、解決策を改善する取組が始まった（「自己を方向付けるもの」）。

10月14日、22日の実践では、解決策を具体的に作成・実行し、積極的に活動に取り組んだ（「自己表現」、「積極的な行動」の高まり）。

IV 実践の成果と課題

浅海(1999)が作成した主体性の下位尺度を測る質問紙（巻末資料4）の各質問項目の回答について、「当てはまる」を4点、「どちらかと言えば、当てはまる」を3点、「どちらかと言えば、当てはまらない」を2点、「当てはまらない」を1点とした。ただし、逆転項目については、「当てはま

る」を1点、「どちらかと言えば、当てはまる」を2点、「どちらかと言えば、当てはまらない」を3点、「当てはまらない」を4点とした。

まず、実践の対象となった6人全体のアンケート、次に個別の生徒について、5つの主体性の下位尺度得点の平均値を算出し、実践前（6月）と実践後（11月）を比較した（図6）。

**図6 生徒全体に関する主体性の
下位尺度別の平均値の変容**

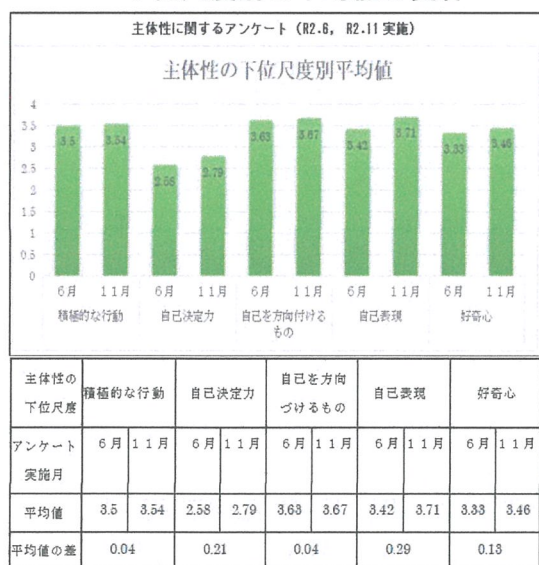


図6より、今回の実践において、実践前（6月）より実践後（11月）の方が、肯定的回答が高まり、5つの主体性の下位尺度の向上がある程度見られた。

1 実践の成果

「変革」を志向するSLを行うことにより、主体性の下位尺度全体の高まりがある程度見られた。筆者が行った批判的に分析をする言葉がけは、効果を高めたと考える。主

体性の下位尺度である「自己表現」は、一番高めることができた。「変革」を志向するSLでは、解決策を実行することにより、話し合い活動だけではなく、創作活動や発表活動など多様な表現活動が展開され、生徒が自分に合った表現方法を選択できる選択肢をたくさん準備できた。生徒が自分の得意とする表現方法で、自己表現ができた実践になったと考える。また、この実践では、解決策の理由や根拠を考えさせる手だてのうち、解決策を大人と協議する機会を数回保持した。そのことで、生徒は大人の意見を鵜呑みにせず、吟味する態度が育ち、「自己決定力」を高めることにつながったと捉える。

2 実践の課題

主体性の下位尺度のうち、「積極的な行動」「自己を方向付けるもの」「好奇心」の3つは、十分に高めることができなかった。この実践で、地域課題を「防災」というカテゴリーに限定したため、生徒が関心のあるその他の地域課題に取り組むことができなかったこと、生徒が時間や場所などを決めて、実行する場面が少なかったことが原因と考える。筆者は、生徒が自分の関心がある地域課題を見つけたり選択できたりするような手だて、そして生徒が時間や場所、計画を決定し、それが実行可能になるよう授業時間設定や外部との調整をするなど、支援を行うことに努めたいと考える。